

## 社会福祉法人 暁光会

### 設立五十周年を迎えて

森 章二

昭和五十八年春、神戸暁光会でバラード神父さんに初めてお会いして二十七年が過ぎました。

最初は、暁光会が運営している老人ホームを見学させてもらおうと、同じパリ外国宣教会のグイノ神父さんに教えてもらったとおり暁光会を訪ねていきました。

当時は、すでに表の鉄筋コンクリート打ちっぴなしの三階建ての建物も出来上がっていましたが、一番奥には神戸の創設当時を偲ばせる建物も残っていました。

七〜八メートル程の廊下には、幾つかの梯子が天井の下に作られた一畳程のスペースに向かっていました。往時はそこも居住スペースとして使われていたそうです。

バラードさんの日本語は、フランス人という事を差し引いても「流暢」には程遠いものでした。

どうも話を聞いているうちに、老人ホームの話ではなく「神戸でトラックを運転できる人がいます。手伝いなさい。」の一言でしばらく手伝う事になりました。

神戸での事業は、大阪、東京と同じく暁光会の基本でもある廃品回収により生計を立てていました。

神戸、芦屋、西宮、宝塚等の支援者や事業所、カトリック、プロテスタントの教会で集めてもらった古紙、古着等を集めてまわります。持って帰った紙や衣類、鉄類を種類別に仕分け、まとめて問屋へ売りに行くという毎日です。相場物の紙や鉄、非鉄金属の値段は景気に左右されるものですが、私が居た十数年はいわゆる「バブル」がはじけるまで、とても高値で引き取られていました。

また、神戸には多くの外国人が住んでおられ、それぞれのコミュニティや外国人婦人会からの協力もありました。集めた品物の中には、道具として貴重な物、美術的に価値のある物もあり、神戸支部では、古物市場へ出品する事で物としての価値を再生し、暁光会の利益になるよう活動をしていました。

当時、神戸支部にはバラード神父、みんなの食事の世話をしてくれていた吉川さん、暁光会本部の事務を担当していた松木さん、神戸支部の責任者をしていた武田さん夫妻と子供達、そして先輩のメンバーが居ました。

鉄物の解体が得意な宮井常吉さん（解体はしても決して



て組み立てない。)

銅線の皮膜を小刀でじょうずに剥く吉田実さん（勝負事が好きで麻雀は玄人、週末は馬券を買いに三宮へ。）

煙突のようにいつもタバコの煙をくゆらせて、風呂を焚くための薪を準備している吉澤さん（三時頃には風呂は焚きあがり、そのお湯の熱いこと！）

脳出血で右片麻痺ながら一緒に紙の仕分けをしていた橋本俊雄さん（四百件近い回収先を全て覚えていて、私は彼から道順と家を教えてもらいました。）

体が弱く入退院を繰り返していた古味伝さん（仕事場には降りてこなかったけれど、毎日誰かが様子を見に行く大事なメンバーでした。）

私は、昭和五十九年五月、神戸で結婚し、二人の娘の父親となりました。

二十七年が過ぎ、時代の変化と共に役割も変わるのでしょうか。神戸支部の共同体としての役割、廃品回収の事業は幕を下ろしました。

それでも、神戸の曙光会も新たな目標を模索しながら、法人、友の会は活動を続けています。微力ながらこれからも協力させて頂きたいと思っています。

吉川さん、松木さん、友の会の皆さん、これからもよろしくお願いいたします。

古味 伝（こみ つたう）

昭和五十八年六月三十日没 享年七十七歳

吉田 実（よしだ みのる）

平成七年二月三日没 享年八十九歳

橋本 俊雄（はしもと としお）

平成九年十二月二十二日没 享年八十歳

宮井 常吉（みやい つねきち）

平成十一年一月二十三日没 享年七十六歳

ロベール・バラード

平成二十一年二月十七日没 享年九十四歳

この他にも大阪、東京のメンバーを含め、亡くなられた多くの先輩方のご冥福をお祈りいたします。

「家を建てる者の捨てた石が、隅の親石となった。

これは神の業、人の目には不思議なこと。」